

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州中野きのこ生産の歴史と未来
事業主体 (連絡先)	一般社団法人日本きのこマイスター協会 中野市大字中野1457-1
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 (イ 農業の振興と農山村づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,343,973円 (うち支援金: 1,849,000円)

事業内容

“きのこ産業の未来”をテーマに、これからのきのこ産業を展望しパネルを中心に例示した企画展を開催。また同時に子供達を対象にきのこの魅力を体験するワークショップ等を開催。

- ・企画展 (中野市立博物館) : 9月~11月
- ・ワークショップ開催
 - ①9月26日、11月7日 中野市中央公民館
 - ②10月17日 三ツ和ジースイト
 - ③11月23日 中野市中央公民館
- ・キッズきのこマイスター認定
- ・きのこ観察会 : 10月3日
- ・きのこ標本作り(プラスティネーション)講習会 : 11月13日

事業効果

- ①企画展の開催 (来場者数 3004人)
パネル展示の他、プラスティネーション技術による天然きのこの標本を展示することで幅広くきのこの魅力をPRすることができた。中野市民をはじめ県内外から来場いただき 信州中野 きのこ生産の歴史と未来展」を通じて中野で育まれたきのこの魅力を発信し共有できた。
- ②ワークショップの開催 (参加小学生延べ48名)
お菓子作り、栽培現場視察と収穫、自ら体験できる栽培キットづくりを行い、きのこに親しみ、知識を深めることができた。3回のワークショップにすべて参加した13名の小学生には、「キッズきのこマイスター」を授与した。

今後の取り組み

中野市が日本一のきのこ産地になった背景や道のり、健康に役立つきのこの魅力、これからのきのこ産業の展望など今回の事業を通じて蓄積した貴重な資料、遺産、情報が多数あるので、イベントなど機会を捉えてこれらを有効活用する場を設定するとともに、将来に向けては常設して発信できる態勢を視野に入りたい。また、きのこの魅力を発信する人材の育成は引き続き継続しきのこ産業を発展させたい。



【ワークショップの様子】

【目標・ねらい】

- ①きのこへの理解を深める。
- ②きのこ好きになる子供達を育成。

※自己評価 【 B 】

【理由】

新型コロナウイルスの感染拡大が続き施設が休館するなど来場者数は目標に達しなかったが、前年比111%の来場者数となった。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある